

# 手毬と紙鳶

文學士 吉丸 一昌 作曲

楠美恩三郎 作曲

- 一、トン／＼手毬の音の数。一い二に三つ四つ五つ、六つと數へて七つになると、わたしは尋常一年生。あらうれしいあ、うれしいな。
- 二、ブン／＼唸るは紙鳶の聲。天上高く見おろして、晝紙鳶の達磨は力んで居れど、小さくなつては後しざり。あら をかしいあ、をかしいあ、

## 手毬と紙鳶

(幼年唱歌第一集) 土川 五郎 振付

- 一、どん／＼手毬の音の数……躊躇して毬に目を注ぎつゝ右手にてつく事七回、終りに直立す
- 一い二に三つ四つ五つ左手を出し右食指にて左拇指を折りて押さへ次に食指を次に中指を折りて押さへ、かくして左五指を全く折る。

六つと數へて……手を開き右食指を左掌にあてる

七つになれば……左手を開掌のまゝ掌を向ふにむけて手頸より先きを立て、腕を伸ばす、右手は食指と中指を残して他指を握り左手の右に並べて出す

私は尋常……右食指を右上に高くあげ

一年生……右肱を曲げ食指にて頭上を上より指す

あらうれしいあ……拍手足踏七回

あらうれしいあ……「あら」にて兩手を少しく左右に開き「うれ」にて拍手し又開き次に

拍手かく四回繰返しつゝ右回轉す、

二、  
ぶん／＼うなるは風の音……右足を一步右に出し右上に揚がれる風の糸をたぐる

天上高く……右足を一步後ろに引き兩手を開き掌を上に向け上体をそらせる

見下ろして 兩掌を返して下にむけ鉢の重みを左足に托し右踵を上げて前下方を見る

ゑだこのだるまは……兩拳を握り胸部に組む

りきんで居れど 一跳躍と共に兩足を左右に開き兩拳を兩側下方に伸ばす

小さくなつては……兩手を胸前に組み膝を屈指体を少しく前下方に屈指、小さくあつて小足にて後退す

あら をかしいなく 第一の歌と同じ

あら をかしいなく……第一の歌と同じ